

令和4年度 学校自己評価計画書

石川県立七尾特別支援学校輪島分校

重点目標		具体的取り組み	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
1	授業実践力の向上	① 知的障害のある児童生徒を対象とした特別支援学校における教科指導の充実事業に合わせ、本校における教科指導の充実を図る。学部研究の中で教科の指導内容が分かる資料を作成し、授業実践を行い、教科の視点での評価を明確にすることで授業改善につなげる。	学習支援課	令和3年度までは、主に指導の形態による視点での授業計画、評価を実施してきた。平成31年度に文部科学省より通知があった、学習評価の改善の具体的な取り組みとして、教科の視点で計画を立て実践・評価を行い、授業改善を図る取り組みが求められる。	【満足度指標】（教員） 7月と12月にアンケートを取り、教員が教科の視点で授業計画を立て、実践・評価を行い、授業改善につながったと感じることができた教員の割合を測る。 4：大変あると感じる 3：ある程度あると感じる 2：あまり感じない 1：全く感じない	アンケート結果が A：4と3合わせて80%以上 B：4と3合わせて70%以上 C：4と3合わせて60%以上 D：4と3合わせて60%未満 【達成目標B以上】	中間評価が基準に見たない場合は、取り組み体制を検討する。	教員アンケート調査 7月と12月
2	組織的・体系的なキャリア教育	① 児童生徒が自らの学習状況やキャリア形成に見通しをもって取り組み、振り返りを行うことで、自身の変容や成長を感じ、学びの蓄積ができるように輪島分校版キャリアパスポートを作成する。家庭へは、学期毎にキャリアパスポートを持ち帰り、児童生徒の変容や成長を共有できる機会を設ける。	学習支援課	昨年度まで、学年・学期の個人の目標や学校行事の振り返り等の仕方は各担任や学部毎に行っていた。学びの蓄積の面では不十分であり、保護者との共有も課題となっている。 今後は、保護者と共有しながら児童生徒が学んだものを蓄積し、系統性のあるキャリア教育の実践が求められる。	【満足度指標】（保護者） 7月と12月にアンケートを取り、キャリアパスポートを通して児童生徒の変容や成長を感じることができた保護者の割合を測る。 4：大変あると感じる 3：ある程度あると感じる 2：あまり感じない 1：全く感じない	アンケート結果が A：4と3合わせて80%以上 B：4と3合わせて70%以上 C：4と3合わせて60%以上 D：4と3合わせて60%未満 【達成目標B以上】	中間評価が基準に見たない場合は、取り組み体制を検討する。	保護者アンケート調査 7月と12月
3	安心・安全な学校作り	① 学校保健として、生きる力をはぐくむ歯科保健指導に取り組む。一人一人の発達段階に考慮しながら、歯・口の健康作りの活動を通して、健康意識や健康行動の変容を促し自立に向けた態度や習慣を身につけるよう継続的に指導する。	生活支援課	昨年度まで各学部で歯科保健指導を実施。う歯保有率は26.1%、治療率は50%であった。今年度は小学部が全国小学校歯みがき大会に参加するのをきっかけに、家庭、学校歯科医、教員との連携のもと役割を明確に組織的に指導をすすめることが求められる。	【努力指標】（教員） 治療率を上げ、う歯の保有率が改善されたかで評価する。 4：う歯保有率0% 3：う歯保有率10%未満 2：う歯保有率20%未満 1：う歯保有率20%以上	2回の歯科検診と受診結果報告書から A：う歯保有率0% B：う歯保有率10%未満 C：う歯保有率20%未満 D：う歯保有率20%以上 【達成目標B以上】	中間評価が基準に見たない場合は、取り組み体制を検討する。	歯科検診 5月と11月2回実施。
4	業務の効率化	① ICT活用と書類や電子データ等の情報を整理・整頓し、ファイル等を適正に管理して計画的かつ効率的に業務に取り組む。取り組み例として諸会議等の資料のペーパーレス化、机上整理等を行う。	全教職員	学級経営や校務分掌業務において優先順位を決め、計画的に効率よく業務を進めていくことが求められている。	【努力指標】（教員） 8月と1月にアンケートをとる。 情報を整理し効率的な業務となるよう工夫した回数が学期に3回以上の教員の割合が A 80%以上である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。	アンケート結果で「情報を整理し、工夫して業務に取り組むことができた。」と答えた教員の割合が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満 【達成目標B以上】	中間評価が基準に見たない場合は、取り組み体制を検討する。	教員アンケート調査